

島根県公立小中学校  
事務職員研究会

会長：立脇 涉  
(大田市立鳥井小学校)

編集：広報部

VOL.37 2009.12.12(時雨号)

発行責任者 川本中学校 福井義信

島事研ホームページ

<http://www.oh-net.com/~kenjiken/>



【目次】

- ▶ 第4次研究中期計画案(研究部長)
- ▶ 特集「共同実施」(出雲市)  
出雲市の共同実施と学校事務支援センター
- ▶ 研究委員会の取組み
- ▶ 県大会参加者の感想
- ▶ 人権コーナー
- ▶ 選択研修あ・れ・これ
- ▶ 事務歳時記
- ▶ 実務コーナー
- ▶ まんが「ワーちゃん」
- ▶ 編集後記



第4次研究中期計画(案)

研究テーマ「創造しよう 新しい学校事務を！ 教育課程づくりへの参画を通して」

研究部長 山内 由美子

学校という教育現場で働く私たち学校事務職員の果たすべき役割とは何でしょうか。将来を思い描く子どもたちのために、事務職員としての職能を生かして支援できることは、一体どんなことなのでしょう。

第4次研究中期計画は、「未来を切り拓く子どもたち」のための学校づくりに向け、組織的な対応が求められる中で、学校事務職員が学校組織運営の中で何をすべきかという点に着目して、研究テーマを提案しました。全教職員が丸となり、「教育課程づくり(教育計画の立案、教育内容、教材・教具の整備、予算編成も含めた計画、実施、評価、改善を円滑に展開すること)」に当たれば、必ずや学校教育目標は実現できると考えています。

そこで、今後の学校事務職員の課題を「学校財務マネジメント能力の向上」と「情報共有によるつなぐ役割への発展」ととらえ、この二つの課題追求を柱として「教育課程づくりへの参画」を目指すこととしました。

学校事務職員の専門性は学校財務であると考えていますが、学校では財務の重要性に関する認識は低いように思います。学校に応じた教育課程づくりのために、学校全体を見わたし、学校財務マネジメントを実践できる能力を身につける必要があると考えました。

また、学校、地域、保護者、教育委員会等の関係諸機関との連携を強め、地域社会の教育力を取り入れていくことが、効果的な教育課程づくりにつながると思います。事務職員自らが情報の管理、収集、発信を通して、地域と学校を「つなぐ役割」を果たしていきたいと考えました。

そのために、学校事務の仕事「この範囲が事務の仕事」という枠を取り払い、学校教育を支える教職員としての意識を高め、教員の仕事と学校事務の機能がつながり、関わりながら業務を遂行する「教職協働」が教育目標達成には不可欠です。また、従来の共同実施から、学校と保護者、地域等関係諸機関をつなぐ役割を担う組織としての「協働実施」へと、機能拡大をしてほしいと提案しています。

学校事務職員が教員とは異なる視点で情報提供することで教員と協働して学校づくりに参画すること、また協働実施等により地域や学校とのネットワークを構築するなど、これまでの定型的業務から「創造的業務」へと意識改革を行なうことを具体的視点として設けました。

そこで、会員の皆様、一人ひとりができることから目標をたて、みんなで行動したいと考えています。日々の目標として取組指標を作成していますので参考にしてください。

この研究を学校事務職員だけのもので終わらせず、学校、地域を巻き込んだ新たな取組みにして欲しいと考えています。みんなで実践し、成果と課題を共有し、目標の実現に迫っていきたく願っています。研究部として、会員のみなさまが実践された豊かな情報を受発信し、つなぐ役割を果たしてしていきたいと考えています。

共に「未来を切り拓く子どもたち」のために「創造しよう 新しい学校事務を！」を合言葉に、みんなで実践していきましょう。





## 出雲市の共同実施と学校事務支援センター ～「日本一先生が子どもと向き合うまち 出雲市」をめざして～

学校事務支援センター長 広戸 賢治（出雲市立長浜小学校）

出雲市は、平成17年3月に2市4町が合併し、市立小中学校数が52校（分校3校含む）と県内一学校数の多い市になった。一方で、合併前の旧市町で行われていた異なる事務手続きに加えて事務処理方法が学校ごとに異なる現状があった。

そこで、平成18年度から市内52小中学校を5つのグループに分けて「学校事務の共同実施」を行った。共同実施の目的を端的に言えば、「チームで仕事をする事で事務の効率化を図り、そこで生み出した時間で各学校の事務領域を広げ、教員の事務負担の軽減により教員が子どもたちと向き合う時間を確保する。」ことである。

共同実施を行ったことで、事務の精度は高まり、事務職員間の連携が図られ、また新規採用事務職員の支援や未配置校支援などの成果があった。しかし、教員が「事務負担が減った」という実感を持つまでには至らなかった。人員や体制の改善なくして、教員の事務を事務職員や共同実施組織にシフトするのは無理があることが分かった。

そこで、学校事務の一部を学校事務支援センターで集中処理及びサポートし、学校事務職員の事務量を縮減し、学校事務職員に教員の受け持つ事務を移行する。これにより、教員の事務負担の軽減を図り、教員が子どもと向き合う時間を確保し、併せて、事務職員の一層の学校経営参画を促すことで小中学校の教育推進体制を強化するために学校事務支援センターが設置された。

今日のような変化の激しい社会に対応し、厳しい状況を切り拓いていく人づくりには、確かな学力、豊かな心、健やかな体を調和させた「生きる力」をはぐくむことこそが求められている。世界に誇る「教育のまち」、「学びの志をいただき、ひとりひとりの夢を実現する教育のまち出雲」を作るための一つの機関として、学校事務支援センターが力を発揮することが今まさに求められている。

### 平成21年4月から学校事務支援センターが行っている主な業務

#### 1 学校事務支援センターが直接的に行なう業務について

- 扶養手当、通勤手当等の認定業務
- 宿泊を伴う旅費及び県外旅費の計算業務
- 市費支払い手続き(支出負担行為書・予算整理簿の作成)業務
- 教育バスの利用計画の調整、予約状況の公開、大会等の運行計画の調整業務
- 学校への文書データの配信



#### 2 学校事務支援センターから学校への支援について

- (1) 臨時事務職員の派遣
  - 児童生徒数500人以上の大規模校10校
  - 事務職員未配置校3校
- (2) 学校事務職員への支援
  - 新規採用事務職員、転入事務職員等の実務研修
  - 各種事務処理ソフトの開発、活用の促進
  - 学校事務職員の要望に応じた個別支援～学校事務110番の開設

#### 3 学校における教員の事務負担の軽減について

教員が受け持っている校務分掌のうち、「学籍・転出入事務、教科書事務、教育バスの予約・調整、総合・ふるさと教育事業」については、事務職員と教員が複数で担当となるよう見直しをする。

学校の「未来ネット」の管理者は、事務職員とする。

学校への電子メールの受付(開封)は、事務職員とする。

地域学校運営理事会について、事務職員が事務局として関わる。



## そして秋・・・ ～事務支援グループと事務支援センター～

出雲市立光中学校 馬庭志津子

今年度「きめ細かな・・・」の加配を受けて事務職員が2人体制となり、早や7か月が過ぎました。なにしろ複数配置は初めての経験なので、うまく段取りが組めなかったり、制度や仕組みを十分説明する時間も持たないままで仕事を割振るからかえって二重手間になったりと、初めのころはなかなか2人体制の効果が×2にならず、ジレンマに陥ってしまいました。秋の深まりとともにだんだんとうまくいくようになってきましたが、私自身にとっては、いろいろなことを学べる機会です。

加配を受けて、事務の共同実施の推進と事務支援センターの円滑な業務推進のために活動するのが私の大きな仕事です。(事務職員会の活動もあります。)

事務の共同実施(出雲市では事務支援グループという)は、月1回半日集まり、年度初めの計画に沿って5つのグループが共同歩調ですすめています。共通して実施する項目については、事前に開催する正副グループ長会で内容を確認し資料を準備します。日常的

には、メールを活用し情報の共有化をすすめています。また、グループ内の事務職員未配置校や、新規採用事務職員、転入事務職員への支援を訪問したり、電話やメールを活用したりしながら行っています。他の学校へ行くのもまた楽しからずや・・・。

事務支援センター開設から7か月が過ぎ、効果のあがっている部分と、これからの部分とがあります。教員の多忙感の解消(慣れない事務仕事からの解放)が目的に掲げられています。それと同時に、事務職員が専門性を発揮し、校内の事務改善を積極的にすすめる、学校運営機能を高めていくことも大きな目的です。そのためには、事務職員の定型業務をセンターへ移行することがまず第一段階なのですが、それがまだ十分でない状態の初年度から、校内での事務職員への事務の移行がすすみ、一時的に事務職員の忙しさが増している現状があります。

時々支援センターへ行き、そこの行政職員の皆さんの仕事ぶりを垣間見る機会があります。直接的には学校現場を知らない皆さんですが、知ろうと努力され工夫しながら精力的に職務を遂行しておられます。そのような姿を見るにつけ、2年目に向けてともに方向性を語れるような機会があるといいのに、というのが今の率直な思いです。



## 事務支援センターについて ～担当者としての思い～

出雲市教育委員会 学校教育課  
学校事務支援センター係長 内村 昌

今年の3月に異動内示を受け、異動先が教育委員会内に新設される「学校事務支援センター」であることがわかったとき、正直驚いたことを昨日のことに思い出します。何故なら、市役所入庁以来20年が経過しますが、教育委員会への出向も初めてのうえ、自分自身、一番「教育」に縁遠いと思っていましたので。ましてや「学校事務支援センター」って何?という感じでした。

年度末の事前勉強会で、最初に目に飛び込んできたのは「先生が子どもと向き合う 日本一のまち 出雲市を目指す」という大変インパクトの強いフレーズでした。また、本来業務に加えて、事務的な部分で負担を感じる教員がいかに多いかということも、その時わかりました。

センターの目的は、最終的には多忙を極める教員の事務負担を可能な限り軽減するということです。その

過程で、事務職員に教員の持っていた事務が移ることになりますが、そのままでは事務職員はパンクしてしまいます。そこで、一括集中で処理した方がメリットの大きい事務を事務職員からセンターに移します。こうして、教員に今よりも時間に余裕ができれば、その時間で子どもと向き合う時間を増やすという、今はまだ先が見えませんが、軌道にのれば本当によくできたストーリーだと思います。

センターが稼動して7ヶ月余が経過しました。当初計画されていた業務は紆余曲折ありますが、概ね順調に進んでいると思っています。しかし、如何せん「過渡期」であることから、学校側、特に事務職員側とセンター側でちぐはぐするところがあるのは事実です。

でも目指す方向は同じなんです。みんなが同じ方向を向いて、同じ目線で前に進んで行けば、日本で初めてのすばらしい「改革」になることは想像するのにたやすいはずです。

このよくできたストーリーの本当の主役は、教員でもなければ事務職員でもありません。未来を担う子どもたちです。この子どもたちの明日のために、微力ながらお手伝いしていきたいと思ひます。





## 島事研 研究委員会の 取組み

研究委員 柴村 勉

現在研究委員会は、第43回全事研大会（鳥取大会）での分科会発表に向けて、阿井小学校の田部さんを中心に13名の研究委員で研究活動に取り組んでいます。

鳥取大会の年次別テーマ「教育課程の実施と学校事務」に迫るために《学校財務》《教員の事務負担軽減》《共同実施》という三本の柱を設定して研究活動を進めていますが、これまで研究委員の多くが全事研の示すグランドデザインや、昨年度までの研究部の取組みを【意識せずに】活動してきたという実態もあり、研究活動が遅々として進まず、委員がそれぞれに焦りを感じている毎日です。

ところで、先日の県大会で研究部より提案された「第4次研究中期計画（案）」は、「島事研本会だけの研究ではなく、会員一人一人が自分の研究（課題）として取り組み、更に進化したものになること」を願い、提案されています。

分科会発表にむけた研究活動は研究委員会のメンバーが中心となり、大会当日の発表まで行うこととなりますが、その発表自体は「個人の実践」ではなく、「鳥根の事務職員の実践」でなくてはならないと考えています。

すでに決定している大会日程から逆算すると、「短期決戦型」の研究活動となることは否めませんが、この研究活動・分科会発表を行うことで、全国へ「鳥根の学校事務」を発信し教示を受けるとともに、鳥根県内の会員や関係者へ多くのメッセージを届け、鳥根県全体の学校事務の発展に繋がるものになりたいと考えています。

10年後の事務職員の姿を意識しながら、ともに鳥根の学校事務や教育を考えていきましょう。

去る11月11日、第40回鳥根県公立小中学校事務研究大会が、ミルキーウェイホール（江津市）で開催されました。  
講話 県教委 藤原教育長、 講演 「これからの学校事務・事務職員の在り方について」名城大学 木岡教授、  
シンポジウム テーマ：「これからの鳥根の学校事務を考える」、島事研ビジョン・第4次研究中期計画の提案等がありま

## 県大会参加者の感想

今回の大会で感じたキーワードがいくつかある。藤原教育長の講話の中の「感性を磨く」「知性を高める」「心の豊かさ」。木岡先生の講演で「教職員の相互不干渉」「閉鎖性や前例踏襲」「成功シンドローム」。研究部の提案も含めて今回は内容が分かりやすかった。  
(浜田東中学校 加藤善貴)

外は暴風雨でしたが、私の頭の中も渦を巻いていました。それほど、いろいろな面で考えさせられる内容の濃い充実した大会だったというのが第一の感想です。  
共同実施は協働実施であり、組織マネジメントと同じで、方法論ではなく考え方であることを改めて得心しました。管理職の方にも是非聞いていただきたい内容でした。  
(木次中学校 校長 矢野英明)

木岡先生の講演を楽しみに参加いたしました。講演はもちろん、「シンポジウム」や「まとめと鳥根県ビジョン・提案」もとても参考になりました。研究テーマの設定理由や現状分析など、資料もふまえ分かりやすかったと思います。また教育長様の講話は後半部分のみでしたが、お人柄がうかがえて知る楽しさを教えていただいたように思いました。  
(鳥取市 北中学校 大坪順子)

講演からシンポジウムまで一日じっくりと「これからの学校事務」について考えることができました。また、なかなか難しいですが、木岡先生も言われたように、学校事務職員だけでなくさまざまな学校教育関係者の参加により、より理解と研究の充実を図ることができると思いました。  
(朝倉小学校 中村律子)

以前に比べて参加者がやや少ないようにも思えた。講演やシンポジウムの話を聞いていると、今我々は社会変化にどう対応していけばよいのか、今後の事務職員の在り方について示唆していただいたように思う。未来を見つめ、時代のニーズに対応した積極的な気持ちを持つことが大切なのかなと思ひながら会場を跡にした。(西の島中学校 堀川 勝)

木岡先生の講演は、これからの学校事務について考えさせられた時間でした。  
「共同実施から協働実施へ」保護者・地域を巻き込んで学校を変えていけるように、「創造」する力をつけていかなければいけないと思いました。  
(松江管内 Iさん)

## 人権コーナー

「そうありがたい」と願うことまで

雲南市立加茂中学校 落部久美子

先日、病院で検査を受けることになりました。午前中から次々に様々な検査室を回って、最後の検査は先生から「ちょっと痛いんですけど・・・」と言われました。平気な顔をしながら内心はちよつとドキドキして検査室に入り、思ったほど痛くなくてホッとして時計を見ると夕方五時を回っていました。そこに付いていくくださった看護師さんが、「わたしも受付に用事があるから一緒に行きましょう。」と人気がなくなった廊下を会計窓口まで送ってくださいました。

たわいもない世間話をしながら歩いた時間はほんの数分だったけれど、一日中検査で硬くなっていた気持ちがほぐれていく気がしました。多分それほどの用事はなく私を気遣ってくださいとのことだと病院を出た後で思いました。帰宅する車の中で看護師さんのさりげない心遣いと温かい人柄に、「平凡だけれど思いやり」の言葉をしみじみかみしました。

普段から相手の立場を思いやり尊重することに心掛けていたかと言われれば、まったく自信がありません。むしろ逆の行動を取っていることが多いようにさえ感じます。

でも、そうありがたいと思いつけるように

いじかばあの看護師さんのよつな

りげない温かさを持った人に少しでも近付けるのではないかと思います。



平田中学校 宍道 美鈴

### 「クレーム対応講座」

講義内容は、具体的でわかりやすく、全職員に必要な講座だと思いました。

対応の基本の流れは 落ち着いて受ける(いやな顔をせず、聞き、感情を静める・・・「ありがとうございます。」「申し訳ございません。」「ご心配をおかけしました。」「お手数をおかけします。」「たいへんだったですね。」というマジックフレーズを使う) 判断する 説明する 満足させるといことですが、クレーム対応だけでなく、接遇の基本を教えていただいたように思いました。また、組織として、クレームを生かす体制づくりの必要性も感じました。

## 選択研修 あれこれ

「チーム力強化講座」(講師 (社)日本経営協会 本間直人) 浜田第四中学校 前田 陽子  
とにかくおもしろい講義でした。

昭和の日本経済が昔トップになれたのは、先輩が後輩を育てる OJT があったからだそうです。(OJT の意味も勉強になりました)たとえばお酒の飲み方を先輩が教えてくれたり、相談ごとは上司がたばこに火をつける前に話すな!とか...そういう小さなことからコミュニケーション能力とチーム力を UP する大切なことだと感じました。

来年ぜひ本間先生の講義を受講してみてください! 明日からまた学校のためにがんばろう!という気になります。



### 「知っておきたい法律の基礎」

斐川東中学校 坂本 俊

(研修内容)

法律の基本的原理(法律の成り立ち, 法律の種類, 法律の読み方・見方等), 憲法の基礎(憲法の基本原理, 憲法の構造等), 契約・契約書の基礎(契約書の書き方・作成方法, 効力の有無等), 行政法の基礎(地方自治法, 地方自治特別法等), 地方分権・地方自治・自治職員のあり方について

(感想)

今回の研修は法律ということで、やはり少し硬い講義だろうと思っていましたが、講師の方がとても楽しく、また、受講者への配慮もとても細かくしていただき、2日間をすごく有意義に受講することができたように思います。



# 事務歳時記

久屋小学校  
森山 訓

## 研修を終え車座の生ビール

夏休みは、比較的學校行事も少ないので、あちこちで研修会が開かれる。事務職員研究会でも、少し前までは一泊二日の日程で研修をしたこともあった。勤務時間の過ぎた頃から始まる研修が一番身に入るのは私だけだったろうか。

## 秋つらら真直ぐ行かぬランドセル

集団下校の小学生が、小さな溝のよつな小川に入って、何かを見つけたらしい。ランドセルだけが道端に置いてあるが、子どもの姿はどこにも見あたらない。楽しい道草である。道草は、今の生活科の授業なのかもしれない。

## 草臥れて秋の遠足列乱る

遠足の帰り道は列も乱れ、ところどころに生徒のかたまりができて、若い先生の、特に女の先生に、やたら生徒は群れたがる。生徒はまだまだ元気で、それについていけるのは若い先生だけだからしかたがないか。

## 音楽会響け心のハーモニ

市内の小中学校が一堂に会して音楽会が開かれる。小学校のかわいい合唱や合奏から、中学校の吹奏楽部の合同演奏など、二日間に行われる。最近では、県事務研究大会と重なって、自校の発表を聞けないのが残念だ。



# 新教育課程に向けて 学校事務職員は教育課程編成にどう関わるか、



予算的な裏付けのない教育課程を編成していないか！

- 例えば・・・
- 外部講師をもっと招きたい！
  - 学校図書館をもっと活用させたい！
  - 校外活動をもっと取り入れたい！
  - 備品をもっとほしい！

### 新教育課程の経営スタッフとして・・・

- 活動を支える予算はどの程度か？
- 学校配当予算でまかなえるのか？
- PTA予算をどのようにするか？
- 教材・教具について、私費負担をどうするのか？
- 教材備品等の現有状況はどのようになっているのか？...等々

### 実行性のある教育課程編成を！

参考資料【<http://f-jimuken.csido.com/result/jimukensyuu/19nendo/bunkakai19-4.pdf#search='学校事務職員と教育課程'>】

### 【編集後記】



今年は新型インフルエンザが猛威を振っています。学校においても、手洗い、マスク着用など予防に始まり、休校、閉鎖等対応が大変だったのではないのでしょうか。学校の危機管理を考えさせられるものでした。

今年もあとわずかです。無理をせず、休養をしっかりと取り新しい年を迎えましょう。



A・T

前号、マジカルアイの答えは：  
**平**  
でした。  
みなさん見えましたか？



原作：広戸賢治 画：千葉ひろみ 大橋幸子